

1. 日時 令和6年5月10日(金)
2. 場所 川崎市立向丘小学校 特活室
3. 内容

① 学校長より

- ・学校運営協議会について
- ・参加者について  
今年度よりボランティアや自治会の方々にも参加していただく。



② 教職員紹介

- ・学年主任とコーディネーターの自己紹介

③ 児童会より(計画委員会の5, 6年生)

- ・各種委員会紹介

～委員さんから～

- ・自主的に活動していて素晴らしい。
- ・各委員会は、何名ぐらい？ 5, 6年生？
- ・SDGsにつながる活動になっていて素晴らしい。  
→ペットボトルキャップ回収、  
トイレトーパー、コミュニケーション



～子どもたちから～

- (6年生)感動したと言ってもらえてうれしい。
- (5年生)5年生で、発表していない。後期、この感想を超える感想ももらえるよう頑張りたい。

※資料の確認:教務主任

※学校長より:Coについての説明・食を大切にする子どもについて

図書ボランティアについての説明・九九ボランティアについての説明

④ 授業参観(3校時)

- ・専科の授業について(特別教室利用含む)
- ・交換授業について
- ・GIGA端末の活用について
- ・多目的スペースの利用について
- ・空き教室の清掃について
- ・友達同士の関わりについて



⑤ 学校経営計画について

- ・学校教育目標について(知・徳・体・食) ・キャリア教育について
- ・知:主に学習・徳:主に特活、児童理解、指導・体:健康な心身・食:本校の特徴、4つ目の柱
- ・教育後援会、同窓会、教育ボランティア、地域住民、保護者等、学校を支えてくださる全ての方々とともに学校づくりを進める。
- ・SDGsに関わる部分について

## ⑥委員の皆様より

- ・素直な子たち。詰め込まないで自由な余裕がある教育を。
- ・子どもたちが伸び伸びしている。「こんにちは」と、授業中でも挨拶をしてくれている。落ち着いた。学校経営計画が校長先生から先生方に伝わっているからこそ。街の中に学校がある。地域の一員として、地域も守りつつ。よい地域を。
- ・川崎市で一番古い学校。新しい152年がスタートしている。地域と学校が共に。150年つながってきた子どもたちの姿が見られてうれしい。率先して物事を言える子どもたち。研究が生活・総合、地域とともに。
- ・授業の仕方も変わっているので、驚いた。昔より、これからのこと。個人の個性を伸ばすことの大切さを感じている。挨拶をしてくれる子どもたち。その姿がまちで見られる。
- ・授業を参観して、学年によって違う。校長先生からの重点目標がわかりやすかった。いろいろな授業で、子どもたちがのびのびと授業を受けている。学校での授業は、人間形成。いろいろな経験で成長。多様なことに対応する力。
- ・私たちが小学生の頃、こんな委員会はなかった。やはり、違うんだな。地域、我々と向丘小は、むこうさんげん両隣にはいつている。コロナの前までは祭りに100名以上。踊りを実地の勉強材料にできないか。生きた教材。地域の人と子どもたちが交渉しなければならぬ。面白い。我々もおちおちしてられない。そんな提供をしていければと思っている。暑くてもどうにか実施できるように。
- ・地域の方々とのつながりが、子どもたちを支えてくださっている。フェスタも形をかえていこうと考えている。地域の方々にご相談させていただくこともある。子どもたちが、とてもしっかりしている。ハンドソープの補充等も活動も子どもたち。
- ・図書ボランティアの方々、OGが多い。地域の方々が行ってくださっている。PTAの方々も、保護者の方々も地域に安心する。この会を発信してほしい。
- ・九九ボランティアの方々もOGの方々。毎年、アンケートをとると、保護者の方々からも好評。学校経営計画を聞く機会がなかった。とても、わかりやすかったです。
- ・明るくのびのびしている子どもたち。先生方の接し方が上手。子どもたちも笑顔でやりとり。校長先生の教育方針を聞きながら、安心しました。安心安全豊かな生活が送れる五所塚。公園に変なおじさんがいる。1台、防犯カメラ。抑止力に。もっといい五所塚。向丘小ももっといい向丘小。向丘小が地域の柱。
- ・おし沼は多摩区。生活は、宮前区。ご連絡がないこともあるが、よろしく願いいたします。療育センターの前で、子どもたちの見守りをしている。「おかえり」「ただいま」のやりとり。子どもたちがキラキラしている。4つの柱が実践されている。地域の住民として、よりよくしていきたいと考えている。
- ・委員会の子どもの話がとてもしっかりしていた。素晴らしい。スポーツ団体の代表もやっていて、一人一人を育てる難しさ。集団活動からだけでなく、個を育てて、それを集団活動に結びつける素晴らしさ。4校と接している自治体、できる限りの支援をしていきたい。学校に向いているベクトルを卒業後、地域にどう向けていくかを考えていきたい。